

棒ノ折山(969m)山行報告

【山行日】2021年 12月 12(日) 晴れ

【集 合】栃木市運動公園P AM 5:30

【費 用】マイカー2台 : 3,000円

【メンバー】CL:鈴木、SL大西、飯口、
植竹、嶋田、関、津佐、廣瀬。福島、藤原フ

【コースタイム】栃木市運動公園P5:30＝

さわらびの湯 P7:00/7:25～白谷沢登山口

8:00/8:05～白孔雀ノ滝 8:40～岩茸石 9:20～

棒ノ折山 10:05/10:20～岩茸石 11:00～滝の平

11:30/12:00～さわらびの湯 P13:10/13:30＝

羽生 PA14:55/15:10＝栃木市運動公園P15:30



今週も奥多摩と奥武蔵の接点に位置する棒ノ折山に登る計画を立てた。明るく開けた山頂を持つ棒ノ折山は、奥多摩の中でも独特の雰囲気を持つ山である。特に白谷沢に登るコースは、変化に富んでプチ沢登りを体験できる楽しいコースである。先週同様、圏央道の青梅 IC で降り、県道小曾木

線を進み名栗のさわらびの湯駐車場に車を止める。駐車場の隣には「ノーラ名栗」というグランピングやテント式サウナがある施設が出来、利用者以外は駐車禁止の札が下がっている。出発の準備をしていると係の人が出て来て、登山者用駐車場がさわらびの湯の手前に有るので、移動してくれと言われた。車を登山者用駐車場に移動し、トイレの脇でストレッチを行い出発する。

さわらびの湯バス停から道路に出て、左に名栗湖に向かって登って行く。緩やかな登りは足慣らしに

丁度よく、ダム堰堤上を渡って湖岸を歩き白谷沢登山口に着く。小休止して衣服調整を行い、登山道に入って杉林の中急坂を登って行く。沢沿いの道に出ると藤懸ノ滝が現れ、滝の上から沢の中を

辿るようになる。沢の平らな場所で休憩し、リンゴを食べ水分補給を行う。ここからは沢の中に付けられた細い踏み跡を辿るが、急な岩場や危険箇所はクサリが有るので慎重に歩けば問題なく登れる。やがて岩壁がのしかかってくるようなゴルジュ帯に入るが、ここが本コース一番の核心部でスリルを楽しみながら登って行く。ゴルジュを抜けると白孔雀ノ滝に出て、この先で核心部は終わり平凡な沢沿いの道になる。やがて道は沢から離れ、山腹を登って行くと林道に出る。林道を横切った所にベンチがあり、休憩してリンゴや菓子を食ベエネルギーを補給する。



ベンチの先から急登が始まり、山腹を絡むように登ると大きな岩が立つ岩茸石に出る。ここは十字



路になっていて、山頂へは右の尾根を登って行く。権次入峠までの道は、滑りやすい粘土層に木の根が露出しとても歩きにくい。権次入峠で黒山方面からの縦走路と合わさり、右に広い尾根を緩やかに登ると広い棒ノ折山山頂に出る。山頂は広くて展望が素晴らしく、山頂標識の前で記念写真を撮る。東屋に荷物を置き、それぞれが展望を楽しみスマホのカメラに景色を納めていた。のんびり休憩し、スイートポテトやゼリーをいただき至福のひと時を過ごした。山頂を後

に往路を戻り、岩茸石は直進して河又方面へ向かって下る。岩茸石の左横をすり抜け明るい尾根道を下り、林道を3本横切って尾根を進むとベンチがある。ここは日当たりが良く暖かいので、ここでランチタイムとする。お湯を沸かして各自持参したカップ麺やスープを作り、おにぎりやパンを美味しくいただく。ランチが済んだら尾根道を下り、さわらびの湯に向かって降りて行く。少し先から杉林の急坂を下るようになり、木の根や段差が出て歩きにくい。慎重に下るためペースダウンしたが、何とか河又の集落まで下り着く。

橋を渡って舗装道の急坂を登り返すと、さわらびの湯の駐車場に戻った。皆さんはトイレに直行したので、車を直売所の前に移動し靴を履き替える。直売所を覗いて買い物し、荷物を載せたら帰路につく。青梅ICから圏央道に入るが、今回は狭山PAに寄らず東北道の羽生PAに寄ることにした。羽生PAでお買い物をし、お目当てのクロワッサンやミニチーズケーキをゲットし、無事に岩舟支所へ帰着した。

